

2019年のサンカクフジツボの付着時期

吉田達

目 的

「サンカクフジツボ（通称、アカガキ）が11月に稚貝分散した際に養殖施設へ付けた新しい浮球に付着している」との漁業者情報があったことから、付着したフジツボの種類を特定する。

材料と方法

2019年11月18日に青森市原別地先の漁業者の養殖施設から殻長1~2mmの種類が不明な小型のフジツボ（以下、小型フジツボ）が付着したホタテガイ稚貝（以下、稚貝）を入手した。小型フジツボが稚貝の左殻表面に直接付着している4個体を選び、稚貝と小型フジツボの殻長を測定した。小型フジツボは付着位置が分かるように写真撮影を行って記録を残すとともに、稚貝の右殻に付着したフジツボは海中での安定性を考えて全て除去した。採苗器の袋（種籾袋）を裁断して作った小袋に稚貝を1個体ずつ收容し、個体識別できるように1~4の番号を記載した耐水紙を入れた（図1）。目合3分、1段のパールネットに小袋を收容した後、パールネットの口を縫い、2kgのコンクリート製錘を下段に取り付けて、研究所前の栈橋に垂下した（図2）。12月19日に回収して、稚貝と小型フジツボの殻長を測定するとともに、小型フジツボの種類を確認した。



図1. 稚貝を收容した小袋



図2. パールネットに收容した小袋

結果と考察

試験開始時と試験終了時の稚貝と小型フジツボの測定結果を表1に、小型フジツボの付着状況を図3、図4に示した。なお、試験終了時には2番と4番の稚貝が小袋からパールネット内に流出していた。稚貝は6~8mm成長していたが、小型フジツボはほとんど成長していなかった。4番の稚貝に付着していた小型フジツボ2個体は稚貝表面から剥離していたほか、残る2個体も測定中に殻が破損してしまった。小型フジツボの種類を確認するため、デジタルカメラで接写したところ、赤っぽい殻に白色の肋が見られたことから、サンカクフジツボの可能性が高いと考えられた（図5）。

過去の調査¹⁾ではサンカクフジツボが7~8月を中心に付着するという知見があるが、2019年は複数の漁業者から「9月に掃除した耳吊り貝にアカガキが大量に付着している」、「10月に稚貝分散した際に養殖施設へ付けた

表1. ホタテガイ稚貝と小型フジツボの殻長

| 識別 番号 | ホタテガイ稚貝の殻長(mm) | | 小型フジツボの殻長(mm) | |
|----------|----------------|--------|---------------|--------|
| | 11月18日 | 12月19日 | 11月18日 | 12月19日 |
| 1 | 24 | 32 | 2.1 | 2.2 |
| 2 | 29 | 35 | 1.7 | 1.7 |
| 3 | 35 | 42 | 1.0 | 1.0 |
| | | | 1.7 | 1.7 |
| | | | 1.0 | 1.1 |
| 4 | 27 | 34 | 1.0 | 1.1 |
| | | | 1.2 | - |
| | | | 0.8 | - |

新しい浮球にアカガキが付着している」との情報があることから、サンカクフジツボは9～10月を中心に11月初めまで付着したものと考えられた。

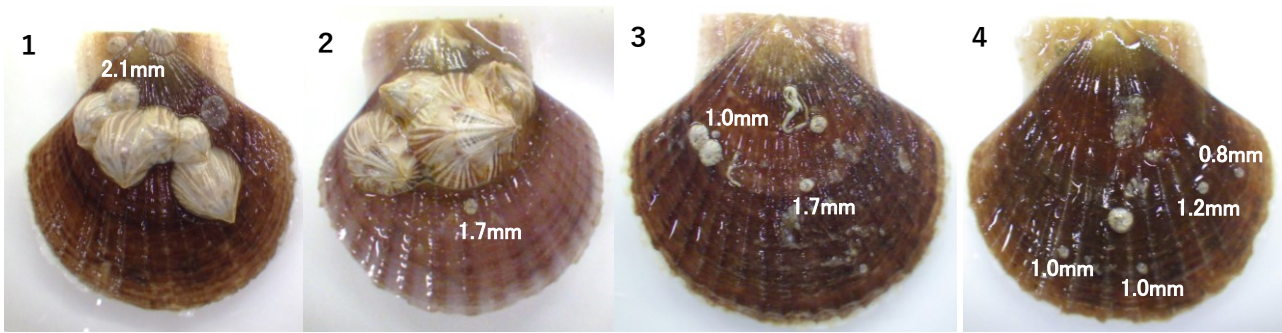


図 3. 試験開始時のホタテガイ稚貝と小型フジツボ

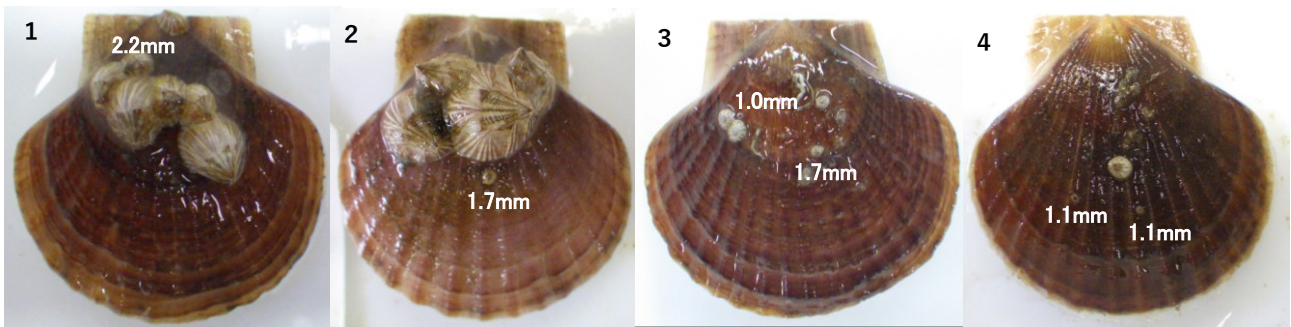


図 4. 試験終了時のホタテガイ稚貝と小型フジツボ



図 5. 試験終了時の小型フジツボ（左から 1 番の 2.2mm、2 番の 1.7mm、3 番の 1.7mm）

文 献

- 1) 豊島岩一(1975) 垂下養殖ホタテガイの付着生物調査. 第16回青森県漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料, 52-55.